

地震・津波に備える

慌てずに対応しよう

日本は地震が多く発生します。大部分は小さなものか、ほとんど感じないものですが、大きな地震に備えることは重要です。

地震に備えて

震度6以上の大地震が発生すると、建物の崩壊や火災が発生し、交通や通信に混乱が生じます。

- ① あらかじめ家族の間の連絡方法や集合場所などを決めておきましょう。
- ② 非常用の食糧や水、医薬品、ラジオ、懐中電灯などを一つにまとめておきましょう。
- ③ 大きな家具や電化製品は転倒しないように固定しましょう。
- ④ 学校や町内会などで行われる避難訓練に参加してみましょう。

地震が起きたら

大地震でも激しい揺れは長くても1～2分で終わります。

大きな地震のあとには、本震より小さい余震がしばらく続きます。

<屋内では>

- ① 強い揺れを感じたらテーブルの下などに身を隠しましょう。
- ② 玄関や窓を開けて出口を確保しましょう。
- ③ 揺れがおさまったら火の始末をし、ガスの元栓を止めましょう。

<屋外では>

- ① ブロック塀や自販機など倒れてきそうなものから離れましょう。
- ② ガラス、看板などの落下物にも注意しましょう。
- ③ エレベーター、エスカレーターは使用しない。
- ④ 交通機関や公共の場所では、係員の誘導や指示に従いましょう。
- ⑤ 自動車は道路の左側に寄せて止め、徒歩で避難しましょう。

津波（地震によって起こる波長の大きな高波）

海岸や水辺の低地にいるときに地震の強い揺れを感じたら、津波に備えて避難が必要です。

- ① すぐに水辺を離れ、できるだけ高い場所に避難しましょう。
- ② テレビやラジオで津波の情報を確認しましょう。
- ③ 避難を呼びかける放送やサイレンが聞こえた時は、すぐに避難を始めましょう。

災害対策本部

- ① 地震、津波、洪水、土砂崩れなどの災害が発生したとき、あるいは恐れのある場合には、市役所に災害対策本部が設置されます。直通の電話は2-3-5161です。
- ② 避難した市民を収容するために公共施設やホテルなどに避難所が開設され、避難が長時間になる場合には食事や毛布が支給されます。